



2020年度 年主題「こころが満たされる」

0・1・2歳児 2月主題「いっしょにね」
 月のねがい
 ◎保育者の祈りにあわせて、神様に祈る。
 ◎散歩して冬の外気にふれ、元気に過ごす。
 ◎保育者や友だちと一緒にいることを喜ぶ。
 ◎保育者や友だちにも思いがあることに気づく。

3・4・5歳児 2月主題「つながる」
 月のねがい
 ◎友だちや周りの人のために自分のことばで祈ろうとする。
 ◎体験したことや経験したことがいかされ、遊びや生活をより深く楽しむ。
 ◎仲間と一緒にアイデアを出し合い遊びや生活をつくりあげることが喜びとなる。
 ◎友だちの喜びや悲しみを感じたり、寄り添ったりする。

だれかのために！

おゆうぎ会のおけいこも最後の仕上げの段階になり、子どもたちも楽しみながらもおけいこしているところです。そんな中、年長児さんは、3月にあるお店屋さんごっこの準備も始めています。

「本屋さんしたいから、絵本作る！」の声が出たので、絵本作りがスタート。画用紙を4枚綴ったものにお絵描きしていきます。既製の絵本を見本にして創る子、自分で考えた物語で創る子、それぞれ。字が分からない、「この字どうやって書くの？」と友だちに聞いたり、「あいうえお表見てみよう」と探したり、まだ鏡文字にもなったりしますが、楽しみながら作っています。年長児のA君。恐竜の図鑑を見ながら、黙々と絵を描いていました。保育者が「何の絵本作ってるの？」と尋ねると「恐竜図鑑だよ！あい組のS君が恐竜好きだから。S君買ってくれるかな〜？」と嬉しいような心配なような表情で教えてくれました。「きつと買ってくれるよ！」と伝えると、「うん！！」と笑顔でまた絵を描き始めました。

「誰かのために、誰かが喜ぶことがしたい！」。自分のことだけじゃなく、他者へ思いを寄せて目標に向かおうとする子どもたちの姿を見て、とても嬉しく成長を感じた出来事でした。3月のお店屋さんごっこ、子どもたちのアイデアでどんなお店が出店されるのか今から楽しみです♪

松元

今月の聖句 「主はあなたをまもるかた。」

詩篇121:5
 新型コロナウイルスの日本流入から1年が経ちました。未だに収束するどころか、感染者が増え続けています。神が創造の神であるならば、どうして人類にとって害をもたらすウイルスのようなものを許されるのか、これは大きな疑問であり、謎でしょう。

けれども、その全てが悪玉であるわけではありません。人類はこれまで3万種類のウイルスを発見していますが、そのうち哺乳類と鳥類に感染するウイルスは650種、さらに1つの種はいくつものタイプに分けられます。人に風邪を引き起こすウイルスを1種とみなすと、それだけでも110ものタイプがあるそうです。平均的に、人は一生の間、200回ぐらいウイルスに感染しているということです。人体に有害なウイルスは、実は全体の1%であって、その他ほとんどは生命維持のために必要なものなのです。たとえば、母親がお腹に子を宿す時、本来であれば異質な父親の遺伝形質を拒絶するのが筋であるはずなのに、そうならず受胎出来るのは、ヒト内在性レトロウイルスにあるシンシチンというタンパク質の働きによるということが科学的に分かっているそうです。「ウイルス=悪玉」とイメージしがちな中、これは驚きです。その中の1%しか悪玉ではない。その悪玉もなくなればいいのと願う限りですが、その悪玉の存在が長い目で見たら、私たち人間の生き方やあり方、存在意義を問い直す役割を担っているようにも思います。神さまは、そのようにして、短期、中期、長期的に、人類を、私たち一人ひとりを守ってくださっている。このコロナ禍にあっても、そう思わざるを得ないのです。

協力牧師 池田基宣

募金のお礼とお知らせ

先般実施しましたお年玉募金にて、45,681円集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際飢餓対策機構に送金させていただきます。皆様のご協力に心から感謝致します。

2月の行事予定

6日(土)	おゆうぎ会
8日(月)	振替休日(1号)
12日(金)	誕生会(2才以上2月生)
16日(火)	卒園記念撮影(年長児)
17日(水)	参観日(あい組)
18日(木)	参観日(いるかグループ)
19日(金)	参観日(くじらグループ)
24日(水)	お別れ遠足・弁当日
27日(土)	めぐみ組誕生会(1~3月生)

3月の行事予定

2日(火)	役員会
4日(木)	弁当日
6日(土)	第63回卒園式・父母会総会
10日(水)	誕生会(2才以上3月生)
13日(土)	参観日(ひかり組)教材渡し
19日(金)	修了式(1号午前保育)
30・31日	休園日(新年度準備の為)



選り食いの生き方

少し寒さも薄らいだかと思えば、暦ではもうすぐ立春。おゆうぎ会のお稽古で「全集中」を強いられながらも、相変わらず園庭を元気に駆け回っている子どもたちです。このコラムを書いている時点では、市長・市議選挙の結果は不明です。どなたであろうとも、子どもたちの未来のために本当に必要なことを、本気で取り組んでいただきたいと願っております。

日本でも新型コロナウイルスのワクチン接種の話がでてきました。一般の人が摂取できるのは随分先の話です。収束の道はまだ険しく、ワクチンによって一人でも多くの方の命が守られるよう祈らずにはおられません。我々人類は自然災害や疫病など、多くの犠牲を伴う大きな困難に何度も遭遇し、それを乗り越えてきました。これらは殆ど予測が難しい事象なので、遭遇した際にダメージを最小限に抑えるための冷静な対処が求められます。悲観的な思いを持ちつつも、前向きに生きていくには何が必要でしょうか。

命に関わるような出来事に遭遇することもありますが、こんな時には、人間性もネガティブな気持ちに陥ることは当然です。曹洞宗の名僧である沢木興道氏がこんな言葉を遺しています。

『全部は選り食いで、選り食いはせぬ。』

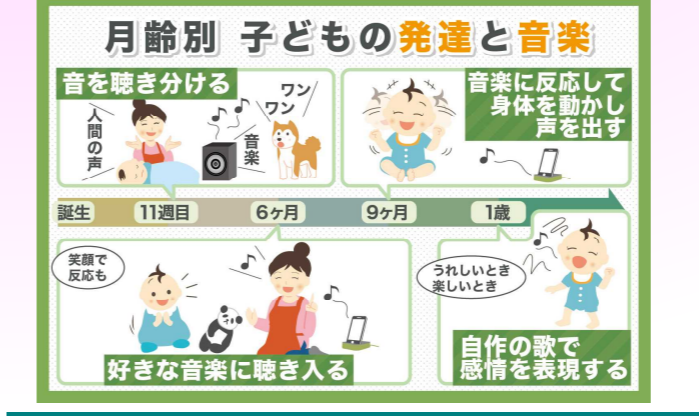
これは偏食についての戒めではなく、人生の生き方についての覚悟の言葉と捉えられます。「人生の食卓には、いろんな食材が出てくる。好物もあれば、嫌いな物も出てくる。ご馳走ばかりとはかぎらない。粗末な食事が供されることだってある。私たちは自分の人生において客である。客だと考えたほうがいい。なかなか、自分の思い通りに生きたり考えたりできない。客だとすれば、私たちが出された食事を、あれこれ選り好みしないで全部いただく必要はない。注文をつけることは、客の分際をわきまえていないことになる。そう、逆境になれば、客の分際をわきまえて生きていくことになる。そう、逆境の人生を生き抜くには、選り食いの生き方である。」「とのこと。ただし、簡単なことではないですね。人間には本来、『レジリエンス』と呼ばれる困難やストレスに対応する「しなやかな心」や「立ち直る力」が備わっているそうです。しかし、それがうまく機能せず、心が回復しづらい人も、また存在するわけです。レジリエンスを確かなものにするためにも、発達の過程にある幼児期から意識して、小さな困難や葛藤を伴う多くの体験ができる環境づくりが、大人の大切な役目だと信じます。

暦の上ではもう春。次第に日差しや肌に触れる風が、心地よく出てくる季節です。おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなと一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えていくことも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くために、おゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。残り少ない三学期を思う存分楽しんでいきます。

学園長

親子で楽しむ音楽

幼児は生後11週目くらいから人間の声、それ以外の音を聞き分けられるようになります。親がたくさん話しかけたり、音楽をたくさん聴かせたりすることで、徐々に人の声の区別がつくようになります。9ヶ月頃から幼児は誰に向けるわけでもなく言葉を発するようになります。この時期にたくさん音楽を聴かせることで、意味の無い言葉を発して言語能力の基盤を作ったり、リズム感を養ったりできます。1歳頃になると、幼児は自作の歌を作ることがあります。子どもが歌うのは楽しいとき嬉しいときです。最初は音階の繋がらない曖昧なものですが、年齢を重ねるにつれて音階のしっかりした歌になっていきます。



音楽が幼児期の子どもに与える影響

幼児期の音楽をたくさん聴いていると、音楽を聴く力が高まり、一つの歌から人間の声、楽器の音、和音などを聞き取れるようになります。

運動を行うことには、知覚と動作を連結させる必要がありますが、音楽を聴きながらダンスをしたり、歌ったり手を叩いたりといった簡単な動作と一緒に取り入れると、知覚と動作が連結しやすくなるのです。

合奏や合唱を経験することで協調性が生まれ、他者とのコミュニケーションを円滑に進めやすくなるのです。達成感を味わうことで自己肯定感が強まり、人と対等に接することができるようになります。

